

旧ソ連におけるアメリカコハクチョウの繁殖

A. A. Kistchinski, R. I. Zlotin and V. E. Flint

ユーラシアとアメリカのコハクチョウの分類の関連について、研究者間に統一した見解はない。我が国の大部の分類学者はこれらを独立種としているが、西ヨーロッパやアメリカの鳥学者は、Delacour (1954) にならいこれらは同一で、*Cygnus columbianus* であるとしている。「黒い嘴」のコハクチョウ全て、*cygnus*、*bewickii*、*columbianus*、*buccinator* を *C. cygnus* 1 種にまとめる見解され提出された (Portenko 1972, Johnsgard 1974)。いずれにしても、コハクチョウの同一性の根拠の重要性を認めるが、ここでは旧ソ連における伝統に従いユーラシアのものを *C. bewickii*、アメリカのものを *C. columbianus* とする。これらの分類上の問題の解決には、両タイプが接触する可能性のある地域、特にベーリング海峡地域での分布を調べる事が重要である。

チャウン低地以東のチュコト半島にどのタイプのコハクチョウが生息するかの問題は、これまで未解決であった。この地域でコハクチョウが観察されるのは、メチグメンスク湾、ローレンス湾、ウツェ・ヴェエム川河口、エヌルミナ、ネシュカンラグーンとクリュチン湾間の多くの場所、アムグエマ川とエキアプ川の下流部、シュミット岬近くである。これらの観察記録は少なく、数年間に渡っており、Portenko (1972) を引用し、Lutsyuk & Sychev (1974) で補った。種の識別が正確に出来なかったのは 1 例もないが、1 例だけ (ネシュカンラグーンで飛べない家族群、Lutsyuk & Sychev (1974) による) は、モリしなかった。種と亜種が確実に同定出来る 齢の標本をここでは採集しなかった。可能性としては、オオハクチョウ、コハクチョウ、またカナダ、アラスカ、セントローレンス島を分布域とするアメリカコハクチョウの繁殖がここで期待出来る。現在まで旧ソ連におけるアメリカコハクチョウの確実な報告は、1899-1902年に明らかに迷行の 3 羽が現在のアナディール市とアナディール川沿いで捕獲された例 (Portenko 1939) と同じく迷行のベーリング島における 1 羽 (Stejneger 1887) だけである。1958年 5 月 20日クルゼンシュテルン島 (ジオミト岬) で、ベーリング海峡を西にアジア大陸海岸に向って飛ぶ 2羽が観察された (Kenyon & Brooks 1960)。飛んでいる個体の種を判別出来なかったが、アメリカコハクチョウの様であった。1879年 5 月 27日~7 月 9 日にジェンレトレン岬、コリュチュン湾、ネシュカンラグーン間のツンドラで何回かハクチョウを見たという「ベガ」乗組員の記録は、探険の資料を調べた Palmen (1887) にそこで見たのはアメリカコハクチョウであるという考えをいだかせた。しかし採集標本がないため、彼は種名をあげられなかった。しかしながら、これらの観察は、アメリカコハクチョウが北東アジアに時々飛来する可能性を示すものである。

1974年にチュコト半島コリュチュン湾南東岸にあるツンドラで、アメリカコハクチョウの繁殖を確認出来た。7 月 8 日イオニヴェエム川河口とレコカウレル岬の間で雌雄と数日齢の綿羽の幼鳥 3

訳者

☎080 帯広市稲田町 帯広畜産大学畜産環境学科 藤巻裕蔵

羽からなる家族群を見た。コリュチン湾の沿岸は殆どイネ科草本 (*Dupontia Psilosantha*) とヒメウシオスゲ (*Carex subspathacea*) からなる一様な草原に似たツンドラで、多くの汽水や塩水の湖沼が点在し、テンキグサ (*Elymus mollis*) が生育する礫丘が横切る。湾沿岸から離れるにしたがい次第に標高が高くなり、湖沼の塩分は低くなるが、沿岸から 2 ~ 3 km では *Dupontia* 草原はワタスゲが優占し淡水域のある起伏のあるツンドラとなる。

コハクチョウの家族は、塩分の少ない湖が多い *Dupontia*-スゲツンドラの「内部」にいた。追われたコハクチョウはまっすぐ歩いて去り、途中の湖を渡った。これらが起伏のあるツンドラの縁に着いた時、家族に近づく事が出来た。幼鳥が草むらにかくれると、成鳥が飛びたち、上空を短い間隔 (20~30m) で数回円を描いた。これで嘴の色を確認出来たが、明らかに 2 羽ともアメリカコハクチョウであった。幼鳥 1 羽が捕獲され、飼育され、モスクワ動物園に送られ、1974年12月までここにいた。同じ所でさらに幼鳥のいない 2 つがいと単独の 1 羽を見た。これら全てに十分近づく事が出来、嘴の色から明らかにアメリカコハクチョウと確認した。これらは全て、上述の家族群の様に、湾沿岸から 1 ~ 1.5km 以内の *Dupontia*-スゲの沿岸ツンドラ帯「内部」の汽水湖、淡水湖のあるツンドラから 0.5 ~ 1.5km の間にいた。これらは、1.5 × 4 km の範囲にいた。このようにアメリカコハクチョウはチュコト半島で繁殖するだけでなく、少数の非繁殖個体が生息する。さらに一つの家族群をレコカウレル岬の 5 ~ 6 km 北のツンドラ内で見付けた。岸にスゲ (*Carex stans*) が生え、ところによって水中にスギナモ (*Hippurus vulgaris*) やイチゴツナギ (*Arctophila fulva*) のある淡水湖がいくつかある。これらの湖の一つで、7月12日に 2 ~ 3 日齢の幼鳥 4 羽のいる家族群が見られた (7月13日にその 1 羽の体重は 145g)。成鳥の 1 羽はアメリカコハクチョウで、もう 1 羽はコハクチョウであった。その場合も採集出来なかったが、7月12、13日の数時間近くからの観察で種の識別は確実であった。嘴の色はそれぞれの亜種に典型的なもので、「中間」の特徴は見られなかった。この家族群から幼鳥を捕獲したが、まもなく死亡した。調査基地でこの幼鳥は、地表 1 ~ 2 cm で刈りとったスゲや *Dupontia* の緑葉をよく食べた。これが夏の主要な食物であろう。幼鳥は *Dupontia* やスゲを食べ、飛んでいる力をとり、調査基地近くの汽水湖で水を飲んだ。7月8日に捕獲した幼鳥の体重は、1日に平均 11g 増加した。上述の観察のように、1974年6月22日の飛行機による調査ではコリュチン湾沿岸で 2 つがいを見たが、1 つがいは南部のクエト海峡近く、1 つがいは北東部のタサイトヒン湾にいた。7月1日にレコカウレル岬近くのツンドラ内の塩水湖で 1 羽を観察したが、その後ここからいなくなった。全てこれらの例では、種を確認出来なかった。Lutsok & Sychev (1974) は 1971 ~ 1973 年にコリュチン湾東岸数ヶ所、エイネネクヴィン湯湖、ネシュカン・フィルヒン湯湖でつがいを見た。この場合も種を識別する根拠が得られなかった。私たちは、空中調査のときクレスタ湾の東部のメエチュケン岬東端までの塩水湖の多い平坦なツンドラでも (6月23日)、アムグエマ川下流部からピルヒン湯湖までのヴァンカレム低地 (6月22日) でも 1 羽も見なかった。Kistchinski は 1970 年夏にこの低地のアムグエマ湯湖とヴァンカレム湯湖の間の沿岸部で調査したが、やはりハクチョウを観察出来なかった。

上述の事は、アジア最北東部におけるハクチョウ類の分布を若干明らかにした。オオハクチョウは、多分北へコリマ川下流のツンドラ南限まで (Vorobev 1963, Panchenko 私信)、さらに東へはアナディール川流域に飛来する。オオハクチョウの孤立した小さな繁殖地が、アラスカ西部スワー

ド半島セラウィック川沿いの森林ツンドラで最近見付かった。(Sladen in litt)。アメリカコハクチョウの繁殖場所と夏の生息地は、アメリカのツンドラの様で、チュコト半島の西はコリュチュン湾までである。Palmen (1887) と同様、私たち「ベガ」探険隊はコリュチュン湾の北東部でアメリカコハクチョウを観察したと見做したい。同じ場所でSychevとLutsyukが見たのもアメリカコハクチョウと考えられるが、立証出来ない。SychevとLutsyukは1973年9月にコリュチュン湾沿いに南東に渡るハクチョウを観察したが、同じ方向にハクガンとカナダヅルの秋の渡りが見られたのは興味深い。これもアメリカコハクチョウに似ている。結局、東シベリアのコハクチョウ *C. bewickii j anrowsrii* の主な繁殖地は、東はコリマデルタ (Schaanning 1954、Spangenberg 1960、Vorobev 1963) とチャウン湾までである [最近Ostapenko (1973) はチャウン川デルタベオオハクチョウが繁殖するが、コハクチョウは渡りの時に見られるだけであると書いている。しかし彼は採集もしていないし、近くでの観察もしていない。最近私たちはM.Yu. Zasytkinが同じ場所で撮影したカラーライドを入手したが、幼鳥と一緒に写っているのは明らかにコハクチョウである。そのため、チャウン湾ツンドラで繁殖するのはコハクチョウで、オオハクチョウの繁殖はまだ確認されていないと考える]。それより東部でコハクチョウは非常に少なくなるが、時にはコリュチュン湾まで生息し、アメリカコハクチョウとの交雑も見られる。ウランゲル島にはハクチョウは迷行して来るだけである。(Portenko 1972)。

自然条件におけるアメリカコハクチョウとコハクチョウの交雑を1世代まで見付けた事は、ユーラシアとアメリカのコハクチョウが同一種である事を示す新しい証拠である。しかし、この問題の最終的な解決は、さらに先の事であると考えられる。

[The breeding of the whistling swan (*Cygnus columbianus*) in the USSR. Zool. Zhur. 54: 1525-1528 (1975)]